

令和2年7月1日

敬愛短大附属幼稚園だより 7月号

新型コロナウイルスの感染防止のために休園しておりました敬愛幼稚園に園児たちの歓声が戻ってきました。年少組は初めてのブランコ遊びを先生に教えてもらいながら、自分でもゆらゆらさせてみるなど、少しずつですが日常が戻りつつあります。年中組は待ちきれないように園庭に飛び出して行き、元気にお友だちとの遊びを楽しんでいます。

一方、年長組は幼稚園でのお兄さんお姉さんとしての自覚を持って、2ヶ月間の空白もなかったかのように落ち着いて幼稚園での日々の生活を楽しんでいます。

4月から千葉敬愛短期大学をこの春に卒業した2人の先生をお迎えしました。年少「つぼみ組」の担任の高木ひより先生は、毎日クラスをきれいに子どもたちをお迎えする準備をしています。そして、年長「にじ組」担任の竹田真理先生は、ピアノの練習をしたり、教材づくりをしたりして、子どもたちが楽しく園生活を送れるようにと準備をしてきました。保護者の皆様、どうぞよろしく願います。

1 本年度初めての「かがくのひみつきち」がスタートしました

第1回目が幼稚園の休園で中止となりましたが、6月20日（土）に開始することができました。主対象の年長組さんが2クラス32名という本園では一番少ない学年ですが、なんと、参加者が16名という盛況ぶりで、学年の約半分の園児が参加するという状況です。園児+保護者（両親での参加もあり）+兄弟（小学生を含む）=40名近い参加者ということになりました。

当日は、他の幼稚園の理事長さんも参観されました。ちょうどこの日は髪の毛のキューティクルや毛根の様子をデジタル顕微鏡を使って観察するというプログラムでしたので、このデジタル顕微鏡を使って自園でも子どもたちに昆虫や様々なものを虫眼鏡よりも大きく拡大して見せたいということから、敬愛幼稚園の取り組みを参考にしたいと話しておられました。

この「かがくのひみつきち」は子どもたちだけが科学の不思議さを楽しむだけでなく、保護者の皆さんには学生時代ちょっと苦手だった「理科」の世界を思う存分に楽しんでいただくことをもう一つの目的にしています。「かがくのひみつきち」に参加された保護者の皆さんはもれなく科学ってこんなに不思議で楽しいのだということを感じていただきたいと思います。

参加されることで、子どもたちが笑顔いっぱい「科学」を楽しむ様子がわかります。お子さんと一緒に肩肘を張らない楽しい科学体験をしてください。そして、お子さんたちを休日に科学館や博物館、動物園や植物園等に連れて行ってご家族みんなで楽しんで来てください。

2 幼稚園まるごとミュージアムが始まります

本年度から幼稚園の研究の取り組みが「科学的環境と保育」になり、「いつでも・どこでも・誰でも科学を楽しめる幼稚園」として「幼稚園まるごとミュージアムプロジェクト」をスタートさせ、幼稚園が少しずつ変身して行きます。前回の園だよりでご紹介した長いホースがまだ仮留めですが2カ所に設置されています。これは、ホースの先に上戸をつけて「もしもし電話」となります（現在ネーミングを検討中）

長さは20m近くあり、1階の柱で顔が見えない場所間や、1階と2階の間でお話ができるようになります。これらのものはまだほんの一部ですが、これからアイデアを出しながら進めて行きます。

（園長 杉山清志）